

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和7年 7月 10日

東員町議会

\_\_\_\_南部議長\_\_\_\_様

東員町議会

\_\_\_\_島田 正彦\_\_\_\_

研 修 報 告 書

研修期間	令和7年 7月 2日(水) ～ 7月 2日(水)【1日間】
研修(視察)先	おおい町議会
目的(テーマ等)	議会改革 通年議会
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

## 様式1〔申し合わせ事項〕:【委員会、全協:共通様式】

〔氏名: 島田 正彦 〕

福井県おおい町は人口 7,631 人で高齢化率 34%と高齢者の多い町である。  
面積は 212 平方kmで東員町の約 9 倍の広さである。  
この規模で歳入 125 億 900 万円には驚く。そのうち 62%が原発依存という。  
今回は議会改革で通年議会を研修のテーマとして参加。  
こちらも津幡町同様に事前質問 9 項目に対して説明を受ける。  
議会改革の一環としての通年議会を採決するまでに 5 年間に要して、議会内、行政内、  
また住民の意見に耳を傾けながら、全会一致で 2022 年採決された。  
その制定に至る背景として、議員の 1 名削減、議員報酬を 23 万 5,000 円から 28 万  
6,000 円と 2 割増しとした。  
時間をかけて制定の通年議会は、住民、行政とのコミュニケーションなしでは成しえ  
ない。  
通年議会を実施後の委員会は今まで以上に活発化した。ただ、委員長の負担が大幅に  
増加したため、委員会委員長の報酬を付与した。  
時間を要した分、住民の声にも今まで以上に耳を傾けた。住民からの要望である公共  
交通としてオンデマンド交通(委託料 4,200 万円)の広域化も委員会の提言で決定した。  
当町でもタブレット使用のペーパーレスを実践しているが、おおい町の様に災害時の  
BCP に基づくタブレットの活用などインフォメーション機能が主体のタブレット  
の有効性をさらに広める必要がある。  
通年議会を目指すのであればそれに伴う議員定数、議員報酬などの見直しも並行して  
考慮する必要があるのではないか。  
三重県では三重県議会を初め四日市市、鈴鹿市、名張市、伊賀市で通年議会を実施し  
ている。  
これらの議会の状況もしっかりと学習していきたい。  
いずれにせよ、おおい町のように通年議会というものを住民や行政に対してしっかりと  
時間をかけて周知を図っていくべきと考えている。

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和7年 7月 10日

東員町議会

\_\_\_\_\_  
南部議長 様

東員町議会

\_\_\_\_\_  
島田 正彦

研 修 報 告 書

研修期間	令和7年 7月 3日(木) ～ 7月 3日(木)【1日間】
研修(視察)先	石川県津幡町議会
目的(テーマ等)	能登半島地震における町と議会の対応について
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

## 様式 1 [申し合わせ事項]:【委員会、全協：共通様式】

[氏名： 島田 正彦 ]

津幡町では、能登半島地震における町と議会の対応についてのテーマで研修を受ける。事前に提出の 11 の質問に危機管理室室長から丁寧な回答をいただく。

今回は行政のみではなく、最後まで議会議長・副議長が参加され具体的なお話を聞いた。

津幡町は、人口 37,500 人で面積は 54.28 KM の山間部が多い土地柄である。

高齢化率は 26.6%ではあるが、山間部では 40%を超える地区もある。

今まで大きな災害にはあまり縁がなかったこの町に、令和 5 年 7 月 12 日線状降水帯による豪雨が発生。町内 8 ケ所で土砂崩れの被害。2,285 世帯 6,017 人に避難指示を出す。

その際速やかに町内 4 ケ所に避難所を開設。議会は行政と連携し被害状況の情報共有を図る。さらにタブレット等を利用し、被災状況などを撮影して行政などに連絡。

この経験を活かしたことにより、令和 6 年 1 月 1 日の能登半島地震では人的被害は 2 名の重傷者だったが、住宅被害は大小合わせて 3,600 件にも及んだ。

またインフラも、町道 1,142 件他河川、公園など多方面で大きなダメージを受けた。

行政の被害状況を適時受けて議会として何をすべきかを議会内で協議した。

議会として気付いた点などを行政に意見書として提起し、改善が急遽必要であれば補正予算での対応を促した。

災害マニュアルは、定期的に現状に即した形で見直さなければならないとの説明を受けた。

豪雨、震災などで二度にわたり甚大な被害に見舞われた津幡町と異なり、大きな災害を経験していない当町では災害に対しての心構えの違いは否めないが、南海トラフ巨大地震はいつ発生してもおかしくない状況であることは忘れてはならない！

高齢者の多いこの町で普段から避難弱者に対しての避難訓練も定期的を実施する必要を切に感じた。災害はいつも待ったなし。備えあれば憂いなしを改めて感じた有意義な研修であった。